

カラクル・コージー

CARACLE CoZ

取り扱い説明書

CARACLE-COZ (20インチ折り畳み自転車)

この度はお買い上げ誠にありがとうございます。



自転車を安全かつ快適にご使用いただくために必ずお読みください。
お求めいただきました自転車の性能を十分に引き出し安全にお乗り
いただくための注意を記載しています。

お乗りになる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使
用下さる様、お願いいたします。

また、この取扱説明書はお読みいただいた後、大切に保管してくださ
い。

目次

安全へのご注意.....	02
安全に乗っていただくために.....	03
各部名称.....	04
乗車する前に.....	05
使用される時の条件.....	06
各部取り扱いと調整.....	07
折り畳みと展開手順.....	09
クイックリリースハブの取り扱い.....	11
お手入れ方法と保管.....	12
交通ルールを守りましょう.....	13
日常の点検と調整.....	14
定期点検・整備チェックリスト.....	15
保証書規定.....	16

安全のご注意

警告

CARACLE-COZ 使用条件※乗車重量 80kg以下

取り扱い説明書に記載されている指定箇所以外の調整は大変危険ですので絶対にしない様をお願いします。

自分で改造しない。

破損や事故のもとになり耐久性を著しく損なう可能性があります。

車輪の脱着やサドルの調整をした後、締め付けを確認せずに乗らない。

車輪やサドルが外れて転倒し、怪我の原因になります。

サドルは、はめ合わせ限界標識が見える状態で乗らない。

折れたり抜けたりして転倒し、ケガの原因となります。

アクロバットのな乗り方をしない。

転倒やケガをするおそれがあります。

ハブステップの取り付け禁止

二人乗りは道路交通法で禁止されています。後ろハブ軸にハブステップをつけての二人乗りは、転倒や大きな事故につながる恐れがあり、大変危険ですので絶対にやめてください。

お酒や薬など運動機能が低下するものを食べたり飲んだりしたときは乗らない

正常な運転が出来ず、事故や転倒によるケガの恐れがあります。

ハンドルから手をはなしたり、ハンドルに荷物をひっかけたり、ペットをつながない。

正常な運転が出来ずバランスをくずしたり、傘や荷物、ひもが車輪に巻き込まれ転倒しケガの恐れがあります。

注意

組立は各部に緩みやガタが無いよう、確実に固定してください。ガタや異常がある場合は直ちに使用を中止し、自転車販売店にご相談ください。

組立後は異常がないことを確認してから乗車してください。

組立、折り畳みの際はギア、折り畳み部等で手を挟まない様にご注意ください。

夜間の無灯火運転は法律で禁止されています。夜間走行及び、暗い場所を走行する際は、ライトを点灯してください。自転車本体に付属していない場合は自転車販売店にてライトをお買い求めください。

荒地・悪路での走行はお控えください。

安全に乗っていただくために

正しいブレーキのかけ方

- ブレーキは前と後ろの両方を用います。順番としては後ろブレーキをかけ、次に前ブレーキをかけます。どちらかだけだと転倒の原因となり、事故のもとです。
- ブレーキは止まるだけでなく、スピードコントロールにも使います。
- 下り坂ではブレーキレバーに手をかけ、ブレーキを少しずつかけながら走行しましょう。
- 急ブレーキはスリップや転倒の原因となり事故のもとです。
- 雨の日のブレーキはスリップしやすいので慎重に行いましょう。
- ブレーキは余裕を見て早めにかけてみましょう。

安全なカーブの曲がり方

- カーブは見通しがききません。衝突等の事故防止のためカーブの手前では十分にスピードを落としましょう。
- カーブ内側のペダルが上になっている状態でペダルを動かさず曲がりましょう。カーブ内側のペダルが下になっている状態でカーブに入ると、ペダルが路面に接触し、転倒事故のもとになります。
- カーブ途中で急ブレーキをかけるとタイヤがスリップし、転倒しやすいので注意してください。

天候の悪い日には

- 傘をもった片手運転は絶対にやめましょう。不意にバランスが取れなくなり、転倒の恐れがあります。
- レインコートを着用する時は、裾が引っかからないように十分注意して乗りましょう。
- 風の強い日は急にハンドルが取られることがあります。あまりスピードを出さない様にしましょう。
- 雪や凍結した路面は滑りやすく大変危険です。無理をせず押して歩きましょう。
- 霧の中では見通しが悪く、大変危険です。必ずライトを点灯させ、注意して走行しましょう。

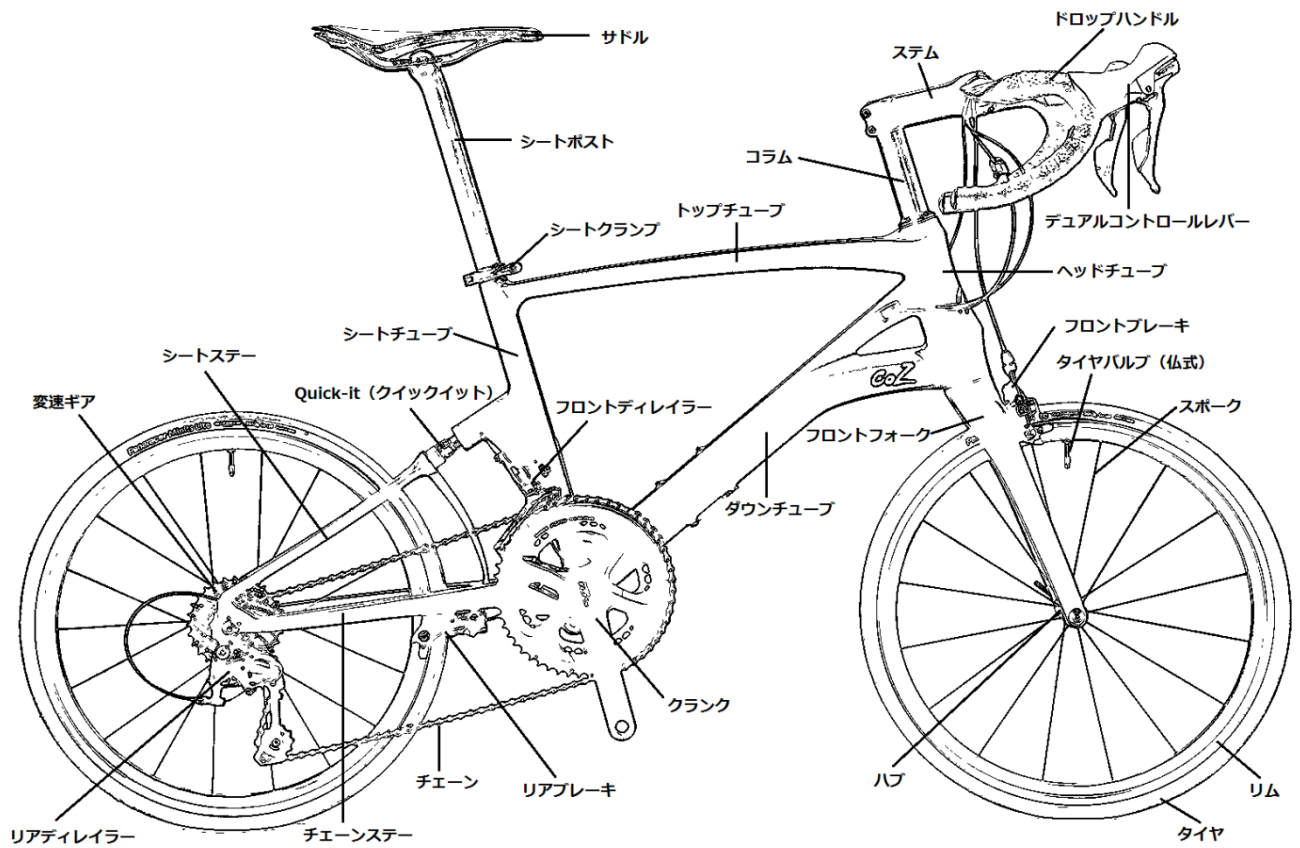
路面状態に注意

- 小石、砂が散らばっている路面で急旋回や急ブレーキはスリップしやすく危険ですのでやめましょう。
- ジャリ道ではハンドルを取られやすく大変危険です。タイヤやリムの破損、パンクの原因にもなりますので、なるべく押して歩きましょう。
- 凸凹な道ではペダルが地面に接触することがあり、転倒することがあるので注意が必要です。
- 市街地ではミゾ及びミゾのカバーに思わぬところではまり、転倒することがあるので注意してください。
- 工事中などで鉄板が敷かれた場所を走行する場合はすき間やスリップに注意しましょう。

自動車・歩行者に注意

- 自転車は原則車道通行です。周りの自動車、バイク、歩行者に注意して道路の左側を走行しましょう。
- 大型の車両の真後ろはバックミラーの視界に入りません。注意して走行しましょう。
- 駐停車や渋滞で止まっている自動車の横をすり抜けていく際、不意にドアを開けられぶつかってしまうことがありますので、注意して徐行しましょう。

各部名称



乗車する前に

正しい乗車姿勢が取れますか？	サドルに座った時、サドルハンドル及びブレーキレバーの位置は適正ですか？
ブレーキはよくききますか？	●左右ブレーキレバーを握った時ブレーキレバーとグリップのすき間が1/2～1/3になるまでにブレーキはききますか？ ●ブレーキワイヤにサビや折れ曲がりがあると、ブレーキの作動が重かったりきかないことがあるので、特に注意してください。
車輪はしっかり固定されていますか？	●自転車を持ち上げて車輪を上から強く叩いても擦れたりガタついたりせず、前フォークやフレームにしっかり固定されていますか？ ●クイックリリースハブの場合レバーを閉じた時に薬指一本で解放しようとしたときに緩まない程度に締め付けられていますか？
ハンドルはしっかり固定されていますか？	●がたつきはないですか？ ●前進方向に対し、直角に取り付けられているか？ 固定の確認方法:大人が車輪を両足で挟んで動かなくしている状態で、ハンドルの左右を持って上下左右にひねろうとしても動かいませんか？
サドルはしっかりと固定されていますか？	●上下左右及び前後にひねろうとしてガタついたり動いたりしませんか？
タイヤの空気圧は十分ですか？	●人がサドルに乗った状態でタイヤの設置面の長さが約9～10cmが目安です。空気圧が低すぎるとタイヤの消耗が激しくなり、パンクの原因となり走行時の抵抗となる原因となります。
ディレイラーは正常に動作しますか？	●クランクを正回転させながらシフトレバーを操作した際、変速はスムーズですか？チェーンがロー側及びトップ側に外れませんか？
各部のネジはゆるんでいませんか？	●自転車を10cm程度持ち上げ軽く落として異音はありませんか？異音がある場合はネジがゆるんでいます。

**上記で異常が見つかった場合は直ちに使用を止め、
自転車販売店にて整備を行ってください**

使用される時の条件

カーボンファイバー製品の取り扱い

1.樹脂の吸湿を防ぐカーボンファイバー製品は、表面に施されたウレタン塗装によって保護されています。しかしながら、表面の塗装がはがれると吸湿します。また、塗装はフレーム内部には施されていないので、自転車を水洗いするときは注意してください。雨ざらしは絶対に避けてください。樹脂は吸湿すると強度が低下します。吸湿したカーボン製品が低温になると、樹脂内部で水分が凍結し、まれに破損することがあります。

2.落車したらご注意ください。カーボンファイバーは高い強度を持っていますが、限界を超えた衝撃や、局所的な衝撃が加わると、素材の内部にダメージを受けます。従って、金属素材のような傷、ヒビは生じにくく、破損が発見しにくくなっています。そのため、落車、事故などで大きな衝撃が加わったカーボンファイバー製品は、表面がはがれて浮いたような箇所や線状の亀裂が無いかよくチェックし、異常が無い場合でも専門店でチェックを受けてください。カーボンファイバーは金属素材に比べて衝撃の伝達が早いので、ぶつかった部位以外がダメージを受ける場合があります。

スピードの出しすぎには注意！

スピードの出し過ぎは安全確認がおろそかになり、思わぬ事故につながります。また、バランスを崩しやすく転倒の原因にもなりますのでスピードは控えめに、標準常用速度を守りましょう。

●自転車の常用速度 ※JIS D9111 15～25km/h

各部取り扱いと調整

正常な乗車姿勢

正常な乗車姿勢が取れるよう、ハンドルとサドルの高さを、乗車する人の体格に合わせてください。疲れず安全に乗るには無理のない乗車姿勢が基本です。サドルに座り、両足をペダル、両手をハンドルのにぎりの部位において以下の3つの操作が容易に出来るようサドルとハンドルの位置を適正に調整してください。

1:ブレーキ操作が確実にできる

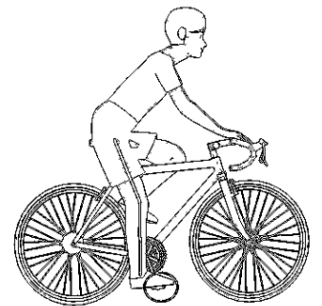
2:ハンドルの操縦操作が容易にできる

3:ペダルリングが円滑にできる

サドルの高さ

●サドルに腰を下ろし、ペダルを一番下まで回して足を乗せた時に膝が軽く曲がる程度の高さが適正です。

●初心者や小柄な方は両足のつま先が十分地面に接するか、又はかかとが少し浮くくらいでサドルを調整してください。



注意：最も高くした場合でもシートポストのはめあい限界標識が見えなくなるまでパイプに入る様にしてください。限界より高い位置で固定した場合、シートポストが折れてケガの恐れがあります。

各部取り扱いと調整

ドロップハンドルの使い方

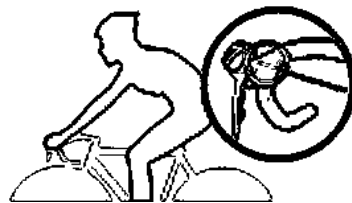
ドロップハンドルはより有効に上半身の力を引き出すことや握る位置を変えることによって乗車姿勢に変化を持たせることが出来、長距離・長時間を走るツーリングやより力が必要となる競技に向いています。

基本的には下記の3種類の握り方ができますが、少し手の位置や握り方を変えるだけで微妙に乗車姿勢が変化します。どこを握るにしても腕が突っ張ってハンドルによりかからず、腰が柔らかくまがり、ヒジには少し余裕を持たせることが望ましいでしょう。

握り方 1 見通しの良い平坦路や緩い上り坂で、楽な姿勢を取りたい時はハンドル上部を握ります。



握り方 2 ブレーキレバー部を握る。ドロップハンドルで一番オーソドックスな握り方です



握り方 3 強い向かい風の時、風の抵抗を減らし、力強く走りたい時に下の部位を握ります。



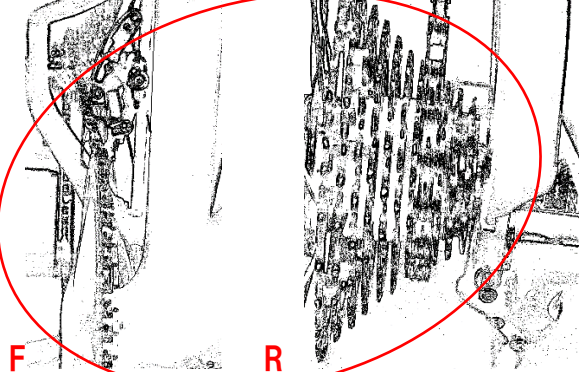
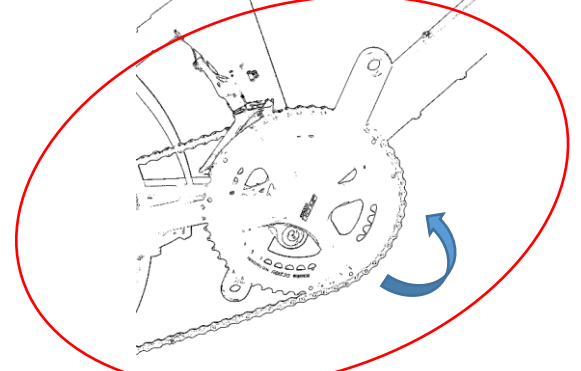
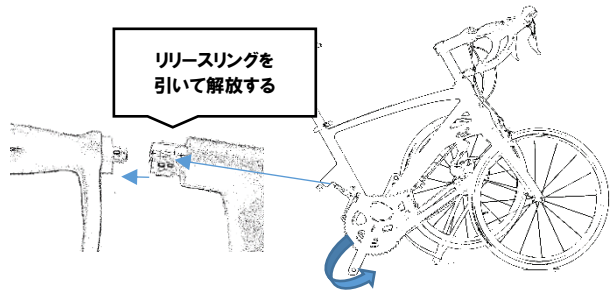
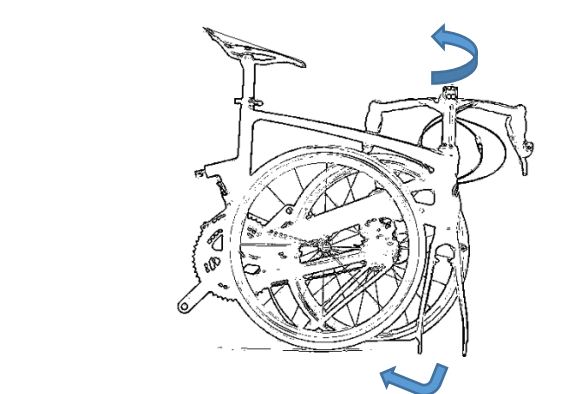
ドロップハンドルでブレーキのかけ方

ブレーキレバー部を握っている時は上から強く押さえつける様にします。ハンドルの下の方を握っている時は指をレバーに引っかける様にして握ります。急ブレーキは避けましょう。なお、握り方1のようにハンドル上部を握るとブレーキレバーに手が届かず、咄嗟にブレーキが掛けられない場合がありますので注意してください。

折り畳みと展開手順

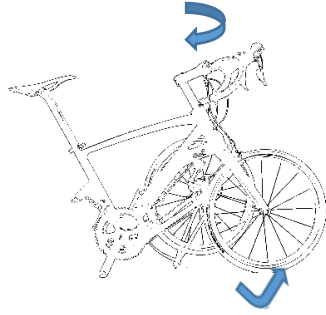
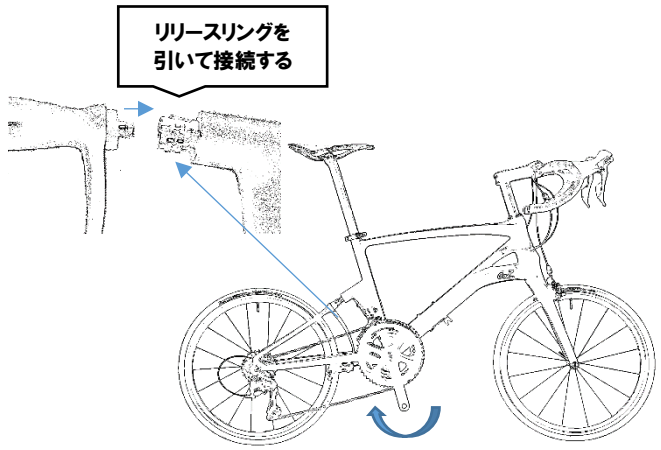
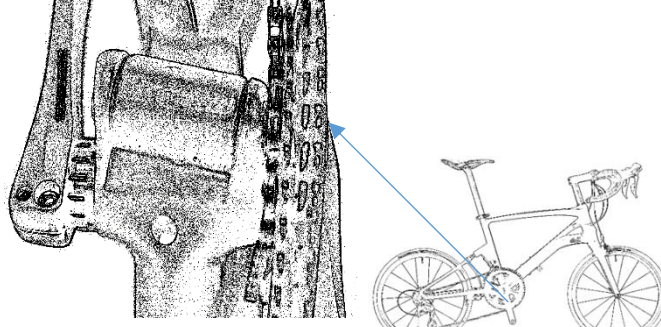
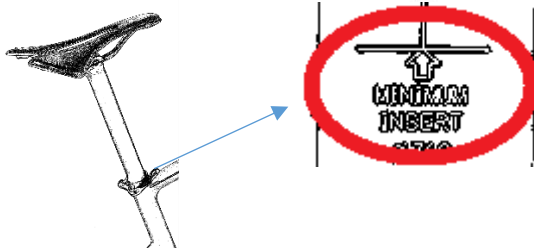
CARACLE-COZ は車体の多くがカーボンファイバーを採用している折り畳み自転車です。素材の特性を十分ご理解いただき、細心の注意を払い取り扱いをおねがいたします。

折り畳み

<p>① <u>変速をフロントはアウター(外側)へ、リアはトップ側(外側小さいギア)より3~4番目のギアに合わせる。</u></p> <p>注意!この位置以外で折り畳みを行うとフロントディレイラーに負荷がかかり、変形や破損する可能性があります。</p>	
<p>② 右側のクランクを1時~2時の位置に合わせる。</p> <p>注意!位置によってはタイヤとクランクが干渉し、キズ、破損の恐れがあります。</p>	
<p>③ 少しサドルを上から抑え、下にテンションをかけながらリリースリングを解放し、リアフレームを折り畳む。</p> <p>注意!折り畳みの際、オプションプレートが付いていない場合はチェーンがフレームに接触し、ダウンチューブがキズつく恐れがありますので、折りたたむ場合はボロ布などで保護することを強くお勧めいたします。</p>	
<p>④ フロントフォークから前輪を外し、フレームに添え、ハンドルを左へ90度回転させる。サドル、シートポストは下げるか、外してフレームに添える。</p> <p>補足:オプションプレートがない場合はバンド等でホイールを固定してください。</p> <p>地面に直接触れるカーボン部位には保護シート等で直接カーボンが地面に触れないようにしてください。</p>	

折り畳みと展開手順

展開

<p>① ハンドルを右へ 90 度回転させ、前輪をフロントフォークに装着する。</p> <p>注意！ 展開作業で一番車体が不安定な状態です。手を放すと倒れてしまうので、両足で挟むか、手を放さない様に注意してください。</p>	
<p>② リアフレームを展開し、Quick-it に接続する。接続する際、リリースリングを後ろに引きサドルを上から抑え接続部を密着させて接続します。接続したらレバーを元の位置に戻して固定します。</p> <p>補足：接続時、リアディレイラーワイヤー、リアブレーキワイヤーが折り畳み部周辺でたるむことがあります。たるんでしまった場合はフレームの内装口からワイヤーを軽く引っ張り、たるみを取ってください。</p>	
<p>③ リアフレーム展開時注意。</p> <p><u>展開時チェーンが外れた時はリアフレーム折り畳み部とクランクのチェーンが噛みこまない様に注意してチェーンを元に戻してください。</u></p> <p><u>無理にチェーンを戻そうとするとチェーンが折り畳み部とクランクの間に噛みこみ、フレームを傷つけてしまう恐れがあります。</u></p>	
<p>④ サドルを適正の高さに戻して固定する。</p> <p>注意！ サドルの高さはシートポスト限界線を越えて調整することは絶対にやめてください。シートポストが折れ、ケガ、事故の原因になります。</p>	

クイックリリースハブの取り扱い

※クイックリリースハブは車輪の脱着が容易にできていますが、使用方法を誤ると非常に危険です。クイックリリースハブの使用方法を正しくご理解の上お取り扱いください。

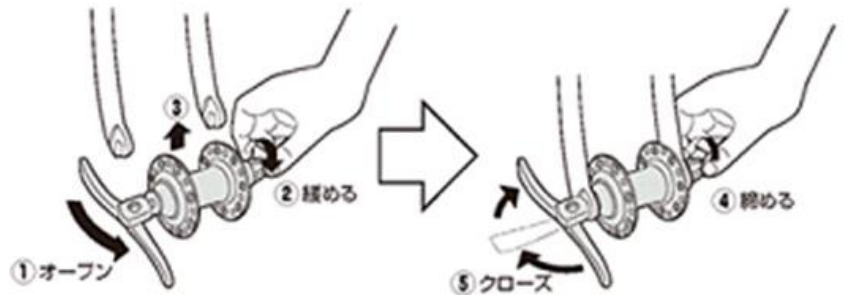
リリースレバーを解除している状態では、絶対に自転車に乗らないでください。車輪が外れてしまい大変危険です。

クイックリリースハブの構造

クイックリリースハブはレバーがカム構造となっており、このカムレバーを閉じるとハウジングと調整ナットが内側に動く力により車輪をフレームに固定します。

取り付け

取り付けの際クイックリリースレバーを OPEN 位置に倒し車輪をフォークエンドの奥に当て確実にセットします。その後、クイックリリースレバーと反対側にあるネジを強めに締め、クイックリリースレバーを CLOSE 位置に倒します。



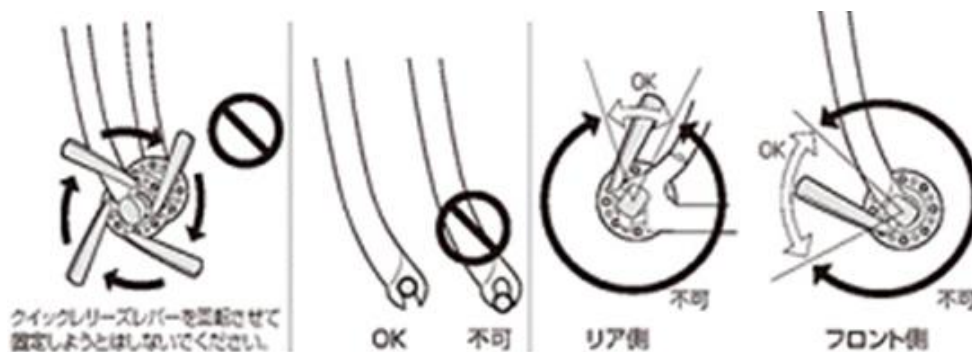
車輪脱着

クイックリリースレバーを回転させて、車輪をフレームに固定をするのは絶対にやめてください。

レバーを回転させただけでは車輪はフレームに確実に固定できません。

車輪が適切に固定されていない場合重大な事故の原因となりますのでご注意ください。

安全のため、CLOSE 位置のクイックリリースレバーの位置がフレームに沿うように調整してください。



お手入れ方法と保管

大切な自転車をいつまでも長持ちさせ、快適にお乗りいただくために定期的にお手入れをしてください。特に雨の後の掃除は念入りに行いましょう。

カーボンフレームのお手入れ

カーボンは、炭素繊維をエポキシ樹脂などで固めて作られていますので、洗浄等される場合は傷の原因となる固いブラシを避け柔らかいスポンジやウエス等で拭いてください。洗浄されたあとは水分が残らない様しっかりと乾燥させるか、乾いた布で拭いてください
傷からフレーム内部に水が染み込むと、フレームの強度が失われる可能性があります。

長くお使いいただくために

一度大きな衝撃を受けて傷が付くと、そこから歪が生まれます。
大きな転倒などの際は、クラックや、ヒビ割れが無いかを確認しましょう。
小さな傷でも、そこから、せっかくのカーボンの耐久性が弱まってしまう恐れがあります。
もし見付けた時は、安全のために必ず自転車販売店でご相談ください。

紫外線にご注意！

カーボンには通常、耐紫外線の塗装が施されていますが、常に紫外線を浴び続ける場合。
また、塗装がはげてしまった場合。このようなケースだと、注意が必要です。そのためにも、丁寧にお手入れすることが大切です。
それと同時に、直射日光を浴び続けない所でバイクを保管してください。

こんなときどうしたら？

転倒、衝突したら、まず何より道路左側によって後続の自動車を避けます。身体に外傷がある場合は手当てを終えた後、自転車の状態を調べてください。異常がある場合は無理に乗ることをせず、安全のため押してください。

その後必ずお買い上げ店で点検、調整を行ってください。

交通ルールを守りましょう

自転車は道路交通上軽車両として扱われています。

道路標識や信号などを守ることはもちろんですが、お互いに迷惑のかからない様交通ルールは必ず守り、安全に正しく使しましょう。

走行中は 道路の一番左側を走る様にしましょう。後方、右側、前方の安全を常に確認してください。	歩行者の優先 横断歩道では、一度止まって歩行者を優先させてください。原則自転車は歩道を通行してはいけません。自転車および歩行者専用の標識がある場合のみ歩道での通行が可能です。
曲がる時は 曲がる方向に30mくらい手前から手で合図しましょう。	信号のない交差点では 左折する時は後方を注意しながら早めに合図し出来るだけ左によって十分スピードを落として曲がりましょう。 右折する時は出来るだけ左に寄って交差点の向こう側までまっすぐ進み、十分スピードを落として曲がりましょう。
一時停止 一時停止の標識がある時は守りましょう。 また、狭い道路から大通りに出るとき、横断歩道や踏切を渡る時、歩行者の邪魔になるような時などは必ず一時停止して、安全を確かめてから走行しましょう。	信号のある交差点では 正面信号が青の時、直進と左折が出来ます。 右折の場合は交差点の向こう側までまっすぐ進み、一度止まって曲がる方向の信号が青に変わってから進みましょう。 交差点進入禁止の標識があるところでは歩道に上がって通行してください。
横断するには 道路を横断したり、交差点を渡る場合、近くに自転車横断帯がある場合は、そこを通らなければなりません。	

標識を守りましょう

安全のために標識は必ず守り、
快適な自転車ライフを送りましょう。



日常の点検と調整

◎乗車前に必ず点検を実施し、安全を確認してからお乗りください。

◎変形や破損している部品は必ず新品と交換してください。

変形や破損を放置したまま使用を続けると、自転車本来の性能を損ない、また大きな損傷や事故につながる恐れがあります。

各部ネジのゆるみについて

チェック方法

①10cmほど持ち上げて軽く落とす

注:異音やがたつきがある場合はネジ類がゆるんでいる可能性があります。

②左右のブレーキレバーを握り、自転車を前後にゆする。

注:ガタがあればヘッドがゆるんでいたたり、部品が破損している可能性があります。

フレーム ●変形やひび割れがないか	ディレイラー ●定期的に注油しているか
サドル ●サドル下のボルトが確実に固定されているか ●限界表示を超えていないか ●シートクランプは確実に固定されているか	注油 ●可動部分に定期的に注油してください。 ただし、ブレーキシュー(ゴム) やリムに油が 付着しない様注意してください。
ハンドル ●デュアルコントロールレバーの固定 ●ハンドルの固定と角度	タイヤ ●タイヤのキズ、摩耗 ●振れ、ガタ、回転性 ●タイヤの固定(クイックレバーの調整) ●空気圧の点検、補充(前後タイヤ)
ブレーキについて ●ブレーキの利き具合 ●ワイヤーのほつれ、切断 ●ブレーキレバーの固定 ●ブレーキシューの当たり具合	

上記の中で異常が見つかった場合は安全のため、直ちに乗車を中止し、自転車販売店で整備を行ってください。

定期点検・整備チェックリスト

異常なし、調整、注油、修理、交換、掃除その他、装着されていない部品

点検箇所	点検項目	販売時	2	6	1	1	2	2	3
			か	か	年	年	年	年	年
			月	月		半		半	
フレーム、フロントフォーク	変形、折損、ひび割れはないか ヘッド、ハンガー小物にガタや摩耗がないか								
ハンドル	固定は確実か、高さは適正か 変形、折損はないか、軽く回転するか								
車輪	固定は確実か、フレームフロントフォークに接触していないか？								
タイヤ	切傷、摩耗はないか、空気圧は適正か								
リム	変形、振れはないか								
スポーク	緩み、折れ曲がり、切損は無いか								
ハブ	ハブナットの緩み、玉押しノガタはないか								
ギヤクランク	ギヤ板の振れヒビ入り曲がり、 ガタは無いか、締め付けは十分か								
ペダル	固定は確実か、取り付け部(クランク側に)バリはないか、 軸の回転は正常か、変形、カシメ、ネジの緩み、 ガタ、折損はないか								
ブレーキ	利き具合は適正か レバーの引きしろに余裕はあるか、ワイヤー類にサビやほつれが無い、ブレーキゴム類の減りは無いか								
変速機	作動は確実か								
チェーン	油汚れ、たるみは無い、ギアとの噛み合わせは適正か								
サドル	固定は確実か、高さ、シートポストの挿入量は適正か 取り付け位置、ガタ、損傷は無いか								
リフレクター	汚れ、ガタ、破損は無いか								
その他	各部のネジの緩み、損傷は無いか								
注油箇所	チェーン、ワイヤー、変速機、ブレーキレバー、								
実施店	実施者名 _____	実施店	/	/	/	/	/	/	/
			年	年	年	年	年	年	年
保証書に印字されている品番及び車体番号を転記してください。 品番	車体番号	確認印							